

ささゆり

平成28年2月
第92号
年4回発行

With all our hearts

～ 光輝く笑顔が鐘の音色にのせて ～



総合福祉施設 社会福祉法人 ささゆり会

サンライフ御立
〒670-0072
姫路市御立東5丁目1番1号
TEL.079-291-6666 FAX.079-291-6667
施設長 笹山 周作

サンライフ魚崎
〒658-0083
神戸市東灘区魚崎中町4丁目10番50号
TEL.078-435-6688 FAX.078-435-6689
施設長 佐藤 光子

目次	頁
クリスマス会演奏	1
レクリエーション	2
クリスマス会・ベトナム人介護福祉士の受け入れ	3
サンライフの思い・御立トピックス	4

サンライフの思い

職員一丸でより良いケアを目指して

特別養護老人ホームサンライフ魚崎
生活相談員 日野 晋佑



私は、平成十四年に、特別養護老人ホームサンライフ魚崎に入社し、今年で十三年目になります。一年目は特養で介護職として勤め、二年目よりショートステイで主任として、約十年間務めさせて頂きました。そして、昨年十月、特別養護老人ホームに就任。新たな環境で仕事をさせて頂いています。

先日、テレビで、ある企業の介護に関するCMを見る機会があり、その中の言葉が非常に心に残りました。「自分で歩きたい。自分で食べたい。自分の事は自分でしたい。歳を重ねると、当たり前の事が当たり前で無くなってしまふ。だから、私達は寄り添い、支え続ける。身体を心で。前向きに生きる意欲を。そして、家族を。」私は、介護の専門家として、介護はお世話をするだけではない。その方が自分らしく生活する為の支援をする事であると考えています。そして、このCMを見て、「利用者様が出来る限り自分で自分らしく生活する為のお手伝いをさせて頂くのだ」と、改めて強く思いました。当施設では、自立支援介護を目指す上で、普通の食事を食べて、しっかりと栄養を摂り、出来る限り車椅子等使用せず、歩行する運動を行い、水分もしっかり飲む事で、身体の調子を整える。これらを行う事で、自分で生活する為の身体を整えるという、科学的介護という手法を実践させて頂いています。そして、その手法を実践し自分で普通の食事を美味しく食べる事が出来るまでになられた方もおられ、成果を挙げることが出来ました。

しかし、その手法を全ての人に行う事が正解だとは思いません。何よりも大切なのは、その人が本当に望んでいるであろう想いを実現する為の支援であり、関わり方やゴールは個々違うと思います。それらの想いに合わせ、寄り添い、身体を、心を、前向きに生きる意欲を、支え続けたいと思います。

しかし、私一人では何も出来ません。職員一丸となり、相談員、看護師、介護リーダー、介護職員、管理栄養士、事務職、全ての職員と入居者様、家族様と共に、考え、悩み、共有し、解決していく。そして、それが入居者様、家族様にとって、充実した幸せな生活、職員にとつてより良いケアを提供する為に必要な職場環境へと繋がっていただける様に、頑張っていきたいと思っています。

御立トピックス

サンライフ御立では地域の皆様に向けて「認知症サロン」を開いています。地域の方々に認知症の事を知ってもらい、認知症の方のかかわり方を皆で考えたり、困っていることを話し合ったりということに加えて、自身が認知症にならない為にどうしたらよいか等をお伝えしています。今回の参加者の方の大半がデイサービスなどに通われている方で

病気で、どうすれば認知症になるのを防ぐことができるのかにスポットをあてたスライドを見ながら説明を行いました。途中、脳を活性化することを目的とした手遊びや、寝たきりにならないための体操を取り入れ、盛り上がり頂けたと思います。普段の仕事で関わる認知症について今回あらためて掘り下げてみて、自分でも勉強になったと思います。



ささゆり会事業報告

- ◆本部
- 十二月 監事会
第七回理事会・第三回評議員会
- ◆サンライフ魚崎
- 十月 消防設備点検
HCC播磨介護技術競技大会出場
東灘警察交通安全教室
- 十一月 グループホーム運営推進会議
- 十二月 クリスマスマス
もちつき
- ◆サンライフ魚崎 寄付ボランティア
- 平澤光一 平山卓甫 村津恵子 丸川清子
伴 淑子 西村笑子 浜上千鶴子 藤井弥生
九ノ里治郎 遠藤真理子 井野由子 藤岡麗理
住吉八重子 打田昌子 岩井照代 富田和子
椋本友子 永島良子 内藤澄子 池上千代子
松原珠江 田中良子 山下春子 竹内耐子
高島加代子 西園節代 森イッ子 善積泰宗
善積安枝 桐生孝子 井上正弘 小笠原薫
ナルク東神戸 ふきのとう グループ「わ」
オカリナ・アマカ ワーキングキャッツ
楽縁会 A・Beerらんち
西青木連合自治会のみなさま

平成二十七年十月～十二月順不同・敬称略

平成27年度 サンライフ魚崎クリスマス会

サンタも笑う、私も笑う、
笑顔でメリークリスマス!



ボランティアさん
いつもありがとうございます!!



新入職員によるダンスを披露。
「どうぞよろしくお願い致します!!」

グループホーム・ケアハウスの
利用者様によるハンドベル演奏



この日に向けて
練習を重ねてくれました!
曲は「きよしこの夜」



シャンヌメリー!!皆様で乾杯!!
メリークリスマス!!



バイオリン・ピアノの音楽による
クリスマスコンサート



サンタクロースから
プレゼント!!!



ベトナム人介護福祉士候補者の受け入れ

国際厚生事業団が、EPA（経済連携協定）に基づくインドネシア人、フィリピン人、ベトナム人介護福祉士候補者の受入機関を募集しており、この度ささゆり会でもベトナム人の受入機関として参加しました。

候補の受け入れは、日本における介護分野の労働力不足への対応ではなく、二国間の経済活動の連携の強化の観点から、二国間の経済連携協定等に基づき、公的な枠組みで特例的に行っているものです。

昨年12月にベトナムへ赴き、候補生と面談を行いました。会場には4日間に分けて85施設の受入機関と候補生189名が参加しており、お互いの情報交換を行いました。ひと施設に与えられた時間は1日だけですので、約6時間でより多くの候補生に施設の情報を説明し、また候補生の疑問や質問に答えました。

ベトナムの候補生はこの面談までに12ヶ月の日本語研修を行っており、面談はほぼ日本語でやりとりができました。とてもよく勉強されていることに驚きました。

今年の2月には施設と候補生がマッチングを行い、成立すれば、ベトナムの候補生は8月から日本で介護職員として働きます。3年間、働きながら介護福祉士の取得を目指します。介護福祉士を取得すればその後も日本で働き続けることができますので、受入機関である私たちは国家試験の合格を目標とした適切な研修を実施しなければなりません。

ベトナムの候補生は、慣れない国で、コミュニケーションを重要とする介護職員として働きます。介護福祉士取得のための研修、介護職員としての研修はもちろん、普段の生活面でのサポートも必要ですので、受入施設として出来る限りのサポートをしていきたいと思っています。



サンライフ魚崎
レクリエーション

高齢になると、「足が痛い」と、歩くのを避けたり、することがなくて、横になって休んだり運動量が減りがちです。体を動かさなくなると、どんどん体が硬くなってしまいます。日々、体を動かすことを楽しみながらできるレクリエーションを取り入れています。

身体を適度に動かし、身体機能の維持や向上すること、脳を活性化させるため、レクリエーションを通じてコミュニケーションや生きがいをつくることを目的に、考え、毎日レクリエーションを実施しています。



手先や頭を使う事で脳が活性化すると言われています。認知症の予防や認知症状の進行を遅らせるなどの働きがレクリエーションにはある為、季節の飾りの作成といった手先を使うもの、歌う、言葉遊び等脳を使うレクリエーションをしています。



コミュニケーションの活性化や生きがいをつくりだします。外へ出るということは、屋内に比べ、はるかに刺激を与えます。高齢者も外に出ると、表情が変わったり、意識レベルがアップし、よく話されるようになり、活気が出る方も多くいらっしゃいます。近所への散歩から遠出の外出までも定期的に企画しています。

